

# 重点推進方策Ⅰ 皆が憧れる経営体の育成と人材の確保 新規就農者の確保・育成

## 就農希望者の要望把握と 地域ニーズの調整

### ■背景とねらい

農業の新たな担い手を確保し、上伊那地域の農業振興を図るため、関係機関と連携して就農希望者への適切な就農相談を実施する。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 就農相談による要望把握

##### (1) 支援センターでの就農相談対応

来訪等 36 件に対して、相談内容に応じた助言や情報提供を市町村・JAと連携して行った。

相談者の内、就農の意向が固まり県の里親研修を希望する方には、里親農業者をマッチングし、来年度から 3 件、再来年度から 1 件の研修が開始される見込みとなった。



写真 1 就農希望者の農家視察の様子

#### 2 就農支援体制づくり

##### (1) 新規就農促進連絡会議の開催

6 月 21 日と 3 月 11 日に市町村・JA 上伊那・農業開発公社・農業経営者協会を招集して開催した。会議では、各組織の取組み状況や現地の課題等について情報共有を図り、活動方針を明確にした。

### ■今後の課題と対応

引き続き相談者の要望に応じて関係機関と連携しながら、円滑な就農につながるよう支援を行っていく。

(地域第一係 原)

## 効果的な研修実施と 就農計画策定助言

### ■背景とねらい

新規就農者の経営確立を図るには、具体的な就農計画の作成と計画に基づいた農業経営が必要である。就農準備段階の方（里親研修生等）が、技術習得や経営能力を習得するための研修や就農計画作成について支援を行う。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 栽培技術の向上支援と就農準備への助言

##### (1) 個別巡回及び検討会等の実施

新規就農里親研修制度を利用する研修生 8 名（うち研修 1 年目 4 名、2 年目 4 名）に対し、それぞれに担当者を 2 名程度割り当て、概ね年 6 回を基本として里親農業者のほ場等を巡回した。研修生および里親農業者双方から研修状況や課題・要望等の聞き取りを行い、より効果的な研修となるよう助言を行った。支援事項等については毎月所内会議で共有を図るとともに、市町村や JA 等とも情報共有をしながら、発生した課題等については、関係機関の連携により解決に向けた支援を行った。

また、研修終了後の円滑な就農に向け、関係機関と連携し個別に検討会を開催する等、就農準備状況の確認や就農計画作成等への助言を行った。

### ■今後の課題と対応

引き続き定期的な巡回指導により、研修生、里親農業者及び関係機関との情報共有を密に行い、研修生の技術習得状況の確認のほか、研修中の課題や就農準備等についての的確な助言を行う。

近年、早期に補助事業や制度資金を活用する研修生が多い。そのため、研修一年目から就農計画の作成支援や補助事業等の情報提供をなお一層努めていく。

(地域第一係 原)

## 教育機関との連携による次代の 就農者育成

### ■背景とねらい

担い手不足が深刻になる中、次代の就農者の育成が求められている。そこで、上伊那農業高等学校や県農業大学の生徒を対象として、先進農家での体験実習やセミナーを行い、生徒の農業に対する理解を深め、就農意欲の高揚を図る。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 県農業大学校現地体験実習の受け入れ支援

県農業大学校 総合農学科の現地体験実習は6月29日から6日間(前期)、8月24日から33日間(後期)の計39日間行われた。生徒6名の実習については、農業農村支援センターにおいて農家の選定や連絡・調整を行うとともに、受入式や終了式の開催、実習期間中の研修状況の確認を行うなど、実習支援を行った。

学生にとっては慣れない農作業や農家生活となり、疲れた様子もみられたが、積極的に自分から仕事を探して作業を行う等、熱心に研修を行っており、農業に対する理解がより深まった。

#### 2 農業の魅力発見セミナーの開催

12月19日に上伊那農業高等学校にて開催し、伊那市、JA上伊那、支援センターの各機関から講師を依頼した。高校生38名、大学生8名が参加し、参加者からは地域農業の魅力が発見でき、農業が職業の選択肢の1つとなったという感想も聞くことができた。



写真1 農業の魅力発見セミナーの様子

### ■今後の課題と対応

引き続き、教育機関及び市町村・JA等の関係機関と連携し、現地での体験実習の支援や農業高校へ農業者等を講師としたセミナーを開催し、次代の就農者の確保・育成を図っていく。

(地域第一係 原)

## 農業講座による基礎知識の 習得支援

### ■背景とねらい

新規就農者は栽培技術等が十分でないことが原因で、農業経営に失敗する場合や、農業経営の安定までに時間がかかることがある。そのため、農業講座「新規就農実践塾」を開設し、新規就農者・就農希望者に対して農業に関する基礎知識・技術の習得を図る。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 新規就農実践塾の開催

##### (1) 講座の開設

今年度は、基礎コース、りんご専門コース、野菜専門コースの3コースを開設した。

##### (2) 受講者及び実施状況

就農5年以内の新規就農者への直接通知や、HP等で受講者を募集し、受講者は基礎コース16人、りんご専門コース8人、野菜専門コース10人となり、概ね募集人数を満たした。

受講者の内数は、青年新規就農者が9人で、里親研修生やJAインターン研修生等の就農準備者は7人となった。

各講座の実施状況は下表のとおりであり、基礎コースでは座学研修、専門コースでは生産者のほ場視察や実技研修等を中心に、計画どおりの研修が開催できた。また、受講者間での交流も盛んに行われ、情報交換する姿も見られた。

表1 講座開催状況

コース	回数	主な内容
基礎	6	地域農業の概要、気象対応、農薬の使用方法、病害虫防除、農業機械の取り扱い、環境農業、農産物マーケティング、カイゼン手法、土づくり・土壌肥料
りんご	3	新わい化・高密度栽培、着果管理、病害虫防除、品種構成の考え方、せん定技術
野菜	3	アスパラガス、ブロッコリー、白ネギ栽培の実際

### ■今後の課題と対応

JA等の関係機関と連携し、受講生の意見も参考にしながら、講師の資質向上や受講者間の交流促進等、内容の充実を図っていく。

(地域第一係 原)

# 集落営農の維持と地域計画の策定

## 地域計画の策定支援

### ■背景とねらい

これまで人・農地プランの実質化に向けて、地域での意識醸成や体制づくりを推進してきたところだが、農業経営体や基幹的農業従事者の大幅な減少により、農地が適切に利用されなくなる危機的状況が懸念されることから、皆で改めて考えることが必要となっている。

このため、令和4年5月に公布された農業経営基盤強化促進法等の一部改正に基づき、地域の協議により将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画(目標地図を含む)」を市町村が定め、それを実行するべく、地域内外から農地の受け手を幅広く確保しつつ、農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化など農地利用の最適化を進めることになった。支援センターにおいても地域振興局現地支援推進員として各市町村の取組みを支援していく。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 伊那市

伊那市では、市、J A上伊那、農業農村支援センター等で構成する伊那市農業振興センターが、中心となり、市内の地域計画策定に向けた取組みを行っている。まず、市農業振興センターが各地区農業振興センター構成員の農業委員、J A理事、地区役員等に説明会を行って理解を求め、更にその各地区農業振興センター構成員が集落農業振興センターや集落組織に対して説明会を行い、市全体の策定に向けて理解を求めた。これにより各集落では、市内79集落において目標地図づくりが進みつつあり、次の段階では、地区農業振興センターで地域計画を作成していく予定となっている。

農業農村支援センターでは、市農業振興センターの構成員として、各地区の農業振興センターに赴き、説明等の支援を行っている。



写真1 西箕輪地区農業振興センター小委員会の様子

#### 2 駒ヶ根市

駒ヶ根市では、市、J A上伊那、農業農村支援センター等で構成する駒ヶ根市営農センター幹事会が、中心となり、市内の地域計画策定に向け取り組んでいる。市営農センター担当者が各地区の農業委員、J A理事、地区役員等に説明会を行って理解を求めた。続いて農業者の意向調査を行い、目標地図(案)を作成し、各地区の農業者に対して説明会(2~3月)を行った。これにより市内各地区で目標地図づくりが進みつつあり、令和6年の7月頃には意見交換会を開催し地図を完成させていく。

農業農村支援センターでは、市営農センターの構成員として、各地区の説明会等に参加し、支援を行った。

#### 3 辰野町

辰野町では、町、J A上伊那、支援センターで構成される辰野町農業振興センター代表幹事会にて、地域計画の進め方について協議を行っており、2月下旬から3月上旬にかけて町内5地区で説明会が実施された。また、農地利用の意向調査としてアンケートが配布された。アンケート結果を基に次年度各地区で懇談会が開催され、目標地図の作成が行われる。

農業農村支援センターでは、辰野町農業振興センター代表幹事会にて、情報提供等の支援を実施した。

#### 4 箕輪町

箕輪町では、昨年度末に農業委員を対象とした地域計画に関する説明会が実施されている。

1月に東箕輪地区農業委員、長野県農業会議職員、支援センター職員にて、目標地図作成の進め方の検討会が実施され、質疑応答が行われた。また、3月には農地利用の意向調査としてアンケートが配布された。農業委員会の改選を踏まえ、次年度改めて農業委員会への地域計画の説明会が実施され、その後各地区での懇談会が実施される予定である。

支援センターでは、県支援チームとして、検討会や説明会に出席し情報提供等の支援を行った。

#### 5 飯島町

飯島町では、8月22日に県庁の担当者を講師に農業関係者全体を対象とした概要説明会が実施された。また、1月に1筆ごと将来地図作成のためのアンケートを行った。アンケート結果の地図提供は4月上旬を予定している。2～3月にかけて農家懇談会を営農センター主催で行い、その中で地域計画概要の説明がされた。

令和6年4月ごろを目途にエリア選定を行う予定である。その際に、農業委員が非農地エリアを先に確認・地図に落とし込む計画となっている。

農業農村支援センターでは、県支援チームとして、検討会に出席し情報提供等の支援を実施した。

#### 6 南箕輪村

南箕輪村では、村検討会委員レベルの地域計画についての概要説明を1回実施したのち、農業者が集う場において概要の説明とワークショップを1回実施した。

また、令和6年2月から対象農地所有者に向けたアンケートの送付が開始され、紙とQRコードの二種類で実施することで回収率の向上を狙っている。なお、地区ごとの座談会は令和6年5月からの開始を予定している。

農業農村支援センターでは、県支援チームとして、検討会に出席し情報提供等の支援を実施した。

#### 7 中川村

中川村では、8月～10月にかけて村内8地区で目標地図確認座談会を開催し、営農センター幹事と各地区役員で目標地図(案)の確認と意見交換を行った。

また、12月から村内全農業者を対象に意向調査を随時実施するとともに、目標地図(案)を各地区に提示し意見集約を行った。現在、調査書の回収および取りまとめを行っている。

今後の予定として、各地区から挙がった意見を踏まえ、再度営農センター幹事と地区役員で検討会を行い、目標地図を完成させる。併せて、10年後の地域農業の在り方を策定し、令和6年8月頃までに地域計画を完成させ公告する。

#### 8 宮田村

宮田村では、村、JA上伊那、農業農村支援センター等で構成する宮田村農業農村支援センターが、中心となり、村内の地域計画策定に向け取り組んでいる。村担当者が宮田村営農組合土地利用部会長に説明会を行って理解を求めた。続いて農業者の意向調査を行い、目標地図(案)を作成している。今後、地区ごとに意見交換会を開催し目標地図を完成させていく。

農業農村支援センターでは、宮田村農業農村支援センターの構成員として、土地利用部会への説明会等に参加し、支援を行った。

### ■今後の課題と対応

現在は概ね計画通りに進行しているが、市町村により進捗度に違いが発生している。農業農村支援センターでは、関係機関と共に取り組みを進め、作成期限までに地域計画や目標地図が完成するよう、今後とも要請に応じて適宜支援をしていく。

(地域第一係 増田、小林、濱)

(地域第二係 井ノ口、増澤、青沼、坂本)

## 経営能力の高い中核的経営体の育成

### 経営管理能力の向上

#### ■背景とねらい

農業者が自らの経営を分析・改善するにあたり、経営管理の基礎となる複式簿記の記帳スキルは必須である。そこで新規就農者等を対象に農業経営講座を開催し、複式農業簿記の知識習得および経営管理能力の向上を図る。

#### ■本年度の取組と成果

##### 1 農業経営講座の開催

###### (1) 新規就農者等への周知

講座は、上伊那農業協同組合(以下「JA上伊那」と合同で開催し、新規就農者や就農希望者を中心にJA上伊那広報誌[る～らる]や当センターのホームページ等で募集を行った。

###### (2) 講座内容

講座は11月22日より毎週水曜日に全6回実施した(表1)。受講生は16名で、新規就農者、就農希望者が大半であった。

表1 令和5年度 農業経営講座の開催状況

No.	日時	内容	講師	会場
1	11月22日(水) 13:30~16:00	開講式～農業経営とは～ 申告のための準備について	支援センター職員 伊那税務署職員	JA上伊那本所会議室
2	11月29日(水) 13:30~16:00	農業簿記の必要性について	外部講師	
3	12月6日(水) 13:30~16:00	農業の取引・記帳について B/SとP/Lの読み方		
4	12月13日(水) 13:30~16:00	決算書の活用について キャッシュフローについて		
5	12月20日(水) 13:30~16:00	資金繰りについて① 資金繰りについて②		
6	12月27日(水) 13:30~16:00	パソコンを用いた農業簿記 の体験	JA上伊那職員	

全講座を通して出席率は概ね8割となっており、熱心な聴講と活発な質問等がされていた。

講座開催後にアンケートを行ったところ、就農時の参考になった等、各講座内容に対して、良かったとの評価が多かった。

#### ■今後の課題と対応

アンケートの中で、開催時期や講義内容等について要望や意見が出されたため、次年度の内容へ反映させていきたい。

複式簿記を含め経営管理スキルは実務の中で習得する部分も大きいため、今後も農業者の経営能力の向上に向けて支援を行っていきたい。

(技術経営係 唐澤)

### 経営発展に向けた 中核的経営体への支援

#### ■背景とねらい

県では「農業経営・就農支援センター」を設置し、支援センターでは現地相談窓口としてJA、市町村と協力し、担い手に向けた経営発展支援を行っているが、課題の中には高度な専門知識が必要なものがある。そこで、「農業経営者サポート事業(以下「サポート事業」)」の専門家派遣等を活用し、農業者の課題解決を図る。

#### ■本年度の取組と成果

##### 1 課題の聞き取りおよび事前診断の実施

本年度は新たに1経営体から相談があり、課題の聞き取り、中小企業診断士による事前診断を実施した。

##### 2 専門家派遣の活用

本年度は3経営体に対して、法人化、労務管理、経営継承、経営改善について専門家派遣を計7回実施した(写真1)。専門家派遣を行った結果、1経営体で経営継承に至り、残りの経営体も経営方針の決定に繋がった。専門家派遣を活用した経営体



写真1 専門家による支援の様子

からは、経営を行う中で不安に思っていることを専門家に聞くことができ、不安の解消や今後の取組みの参考になったとの感想が聞かれた。

##### 3 伴走支援の実施

専門家派遣と併せて、サポート事業の対象者となっている経営体を定期巡回し、専門家派遣後の進捗状況の確認および技術課題の解決等について支援を行った。

#### ■今後の課題と対応

農業者が抱える経営課題は様々であり、相談内容についても多角化してきている。専門知識を必要とする経営支援については、サポート事業を活用し専門家と協力しながら進める必要がある。今後も経営課題と技術課題の両面を結び付けながら、農業者の課題解決に取り組んでいきたい。

(技術経営係 唐澤)

## 認定農業者グループ等の活動支援 (南箕輪村農業経営者協議会)

### ■背景とねらい

南箕輪村農業経営者協議会は、南箕輪村の農業者で構成されている団体である。農業者同士の相互連携と親睦を図り、地域及び農村社会の振興を推進するために活動を行っており、支援センターでは、事務局として活動支援を行った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 本年度の取組み状況

例年実施している盆花の販売が8月12日に行われた。地域住民との交流や地域振興を目的に、お盆に合わせて小菊やアスターの生産を行い、村内住民を対象に販売を行った。今年度はアスターが発芽不良だったため、支援センターは対策案を提示して要望に応えた。また、例年ケイトウの草丈が短いという問題があったが、昨年度から定植時期等について指導した結果、生育が改善された。

当日の販売会では、会員同士が協力しあい、1,000本を超える花束が販売され地域との交流・振興を図ることができた。



写真1 花束作成の様子

### ■今後の課題と対応

今年度は大雪のため、県外視察の実施は叶わなかったが、今後も視察先を提案したり、盆花の生産・栽培の助言をしたりするなど、充実した活動となるよう協議会の運営に関わりながら、支援を行っていききたい。

(地域第一係 小林)

## カイゼン手法導入による労働生産性の向上

### ■背景とねらい

農作業は細かいマニュアルがなく、多くの農家が経験の中で作業の精度や効率化を図っている。その為、作業にムダがあってもそのムダには気が付くことは難しい。

そこでカイゼン手法を活用し、ムダを省き効率的な生産を行う経営体の育成を支援する。

### ■本年度の取組と成果

1 カイゼン手法の導入による効率的な経営に向けた支援

#### (1) 対象農家の選定

今年度の支援農業法人である農事組合法人H(以下法人Hと略)は、資材高騰や単価低下、人材の確保難等の要因に対して、経営改善を模索している状況であった。そこで、カイゼン手法を用いて経営改善に向けた支援を行った。

#### (2) 現状把握

法人Hは管内でも大規模でこのこを生産している法人であり、近年人材の確保難等による生産量の減少が課題となっている。特に出荷調整作業では多くの人員を要するため、協議のうえ、この工程においてカイゼン手法を導入し、効率化を図ることとなった。

#### (3) カイゼン活動の内容と成果

##### ア 作業時間の分析

作業時間を測定、作業員間での株あたりの処理速度を分析し、技術の平準化が改めて課題として浮かび上がった。

##### イ 作業動画の撮影と分析

従業員複数名及び他法人の作業の様子を撮影し、作業員間での違いや改善できる点を分析する中から、作業手順の平準化の必要性が見えた。

##### ウ 作業のマニュアル化

上記の分析の結果から、作業の効率化に向けて従業員が効率的な作業方法が明確に分かるように動画マニュアルを作成することになった。

### ■今後の課題と対応

法人Hのマニュアル導入による効果の分析をするとともに、新たな経営体にもカイゼン手法を導入し、経営改善を図っていく。

(地域第一係 原)

## 地域リーダーの育成

### 農業経営士活動の充実

#### ■背景とねらい

農業経営者協会(以下、農経協)は、先進的な農業経営者として県知事により認定された農業経営士で構成されている。上伊那支部は 27 名の会員がおり、自らの経営発展や担い手の育成、地域農業の振興に向けた活動を行っており、その支援を行った。

#### ■本年度の取組と成果

##### 1 担い手育成懇談会

6月27日に上伊那農業高校、信州大学農学部、JA上伊那、農業農村支援センター、農経協上伊那支部の総勢33名が参加して開催された。

懇談に先立ち、中川村で地元の農経協会員も栽培する酒米を使用した地酒づくりを行う酒造会社、多数の農業研修生受け入れ実績のある果樹主体の農経協会員宅を視察した。

懇談会では、各組織からの担い手育成に関する取組みについて情報交換を図った。



写真1 担い手育成懇談会・視察の様子

##### 2 地元県議との懇談会

11月20日に上伊那地域選出の県議会議員4名と会員9名が参加して開催された。

会員からは、「農産物の価格形成」「人口が減少するが農家は半減させない取組み」について課題提起されたほか、日ごろ抱えている農業農村についての活発な意見交換がなされた。



写真2 地元県議との懇談会の様子

##### 3 支部間交流会

本年度の南信地区は下伊那支部が当番で、8月2日松川町にて数年ぶりに開催され、上伊那支部からは7名の会員が参加した。

「農福連携」「農産加工」「循環型農業」にそれぞれ取り組んでいる農業法人を視察したほか、情報交換会では大いに盛り上がった。

##### 4 農業研修生の積極的な受け入れ指導

支部会員3名が、長野県農業大学校生4名(水稲3、花き1)の農家体験実習について、のべ39日間の宿泊研修を受け入れた。

##### 5 新規会員確保に向けた取組

会員から、地元で立派な経営をしている新規会員候補を勧誘してもらい、3名の農業経営士が認定となった。

#### ■今後の課題と対応

引き続き活動支援を行うとともに、他の担い手団体等との連携に対する支援も行っていく。  
(技術経営普及課 宮下)

## 農業士の育成と活動支援

### ■背景とねらい

長野県農業士協会上伊那支部は、地域の担い手として期待される伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町の会員 10 名と会友 1 名で構成されている。近年は、支部活動への参加率向上や新規会員の確保が課題であり、役員会や支部行事等を支援し、組織活動の充実を図った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 支部活動について

南信地域の農業士協会会員を対象にした“南信ブロック研修会”を、上伊那支部が主催して 11 月に開催した。内容は白ネギ栽培に焦点を当て、収穫～出荷までの一連の作業を視察した。他に管内に製造工場を構える企業の工場見学を行った。当日は南信地域の会員 10 名だけでなく、県下各地(長野、松本、佐久地域)の会員が 3 名参加するなど、研修会としての注目度の高さがうかがえた。また、2 月には土壌分析に関する勉強会を会員が主催し、地域農業者を交えて開催した。



写真1 南信ブロック研修会の様子

#### 2 県協活動への参加誘導支援

県協で開催されるオンライン研修会等の情報について、メールやライン等で連絡を行い、県協活動の参加につながった。

### ■今後の課題と対応

役員会や会員の個別巡回等により要望を把握し、会員の経営発展のために必要なスキルの習得ができるよう、研修会の開催等を支援する。

また、農業士の活動を青年農業者へ周知し、新規会員の確保に努めていきたい。

(技術経営係 小池)

## PALネットながの活動支援

### ■背景とねらい

PALネットながの(長野県農業青年クラブ)は、長野県内の青年農業者で構成され、クラブ員の農業経営の発展、仲間同士の交流に取り組んでいるクラブ組織である。上伊那地域としても交流会や意見交換会を通して仲間とつながりを深めることを目的に独自活動をし、広く会員を募集している。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 会員間のほ場視察会の開催

管内の会員同士の交流を深めるとともに、栽培状況を話し合い、相互の技術向上を図る機会とするために、会員間のほ場視察会を9月12日に開催した。上伊那管内での現地活動は初の試みであったが、参加者からは「知らない品目や施設を見れる機会があれば、勉強になるので今後も参加したい」との意見があった。



写真1 現地視察会の様子

#### 2 意見交換会の開催支援

支援センターが進行役を担い、クラブ員の取りまとめ役と話をし、全員が意見交換できるように会の進行を進めた。初めに自己紹介と経営概況、今後の抱負を話し合い、その後は今後の活動について話し合った。参加者からは「もっとPAL会員を増やして、毎年恒例の行事に管内会員の視察をするのも良いのでは」など多数の意見が出され、有意義な時間となった。

### ■今後の課題と対応

上伊那管内の会員数は少数だが、仲間同士の繋がりや交流の支援を今後も進めていきたい。

(地域第一係 小林)



## 宮田村農業者クラブ 活動の活性化に向けた支援

### ■背景とねらい

宮田村農業者クラブ会員 32名（令和6年2月21日現在）は、農業者同士の情報交換、必要な農業技術の習得等を通じて地域農業の維持発展に貢献することを目的として活動している。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 視察研修会の開催支援

10月26日に塩尻市の「長野県野菜花き試験場」、「五一わいん」及び松本市の「今井恵の里」へ視察研修を行い、会員6名が参加した。

支援センターでは、視察先の提案、日程調整スケジュールの作成、視察先との調整などの支援を行った。

#### 2 勉強会の開催支援

2月26日に上伊那農業農村支援センターの職員を講師として、排水対策と土づくりについての勉強会を開催し、会員7名が参加した。支援センターでは研修実施にあたり講師との調整及び当日の進行を行い、会員にとって有意義な研修になるよう支援を行った。研修会では、土づくりについての知識に自信がない会員も多かったが、講師からのわかり易い説明を受け、「不安に思っていた点が解消し、良かった」等の意見もあり、土づくりに対する理解が高められた。



写真1 学習会の様子

### ■今後の課題と対応

会員の年齢幅が広く共通の興味や課題が見つけにくい。品目を超えて興味がわく内容の事業を行うと共に、地域の担い手としての資質を高める学習・交流を支援する。

（地域第二係 坂本）

## 南箕輪村農村青年倶楽部 活動の活性化に向けた支援

### ■背景とねらい

南箕輪村農村青年倶楽部は、平成4年に発足した会員21名（令和6年3月1日現在）の団体である。会員同士の連携と親睦を図り、地域貢献を推進するために、活動支援を行った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 大芝高原まつりへの出店支援

8月26日に開催された大芝高原まつりにて、トラクター乗車体験や農業クイズなどのコーナーを設け、村の一大イベントへ出店した。支援センターは、大型トラクターに対する地元住民の理解を深めるための活動支援を行った。



写真1 大芝高原まつりの様子

#### 2 県内外の物販会開催支援

10月21日に開催された南みのわ農産物フェアにおいて、会員有志が農産物販売会へ参加した。県外の活動においては、10月27日に開催された長野県町村会主催の収穫祭めぐりにて出店し、愛知県における物販イベントに参加した。また、12月15日には県庁特別食堂において、長和町と合同で物産展を実施するなど、県内外での物販会を意欲的に実施した。支援センターからは県内外の販売会情報を提供するなどの活動支援を行い、物販に対する会員の意欲向上を図った。

### ■今後の課題と対応

物販活動に対して意欲的であるため、県内外の物販会の情報を提供し、引き続き活動を支援していく。

（地域第一係 小林）

## 農村女性リーダーの育成 長野県農村生活マイスター上伊那支部の活動支援

### ■背景とねらい

農村生活マイスター上伊那支部は6地区から構成され、54名の会員で活動している。本年度から始まった「女性活躍に関するアクションプラン」の推進役となる農村生活マイスターの育成、活動支援を行った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 農村生活マイスター

##### (1) 各種事業の積極的な実施

マイスター協会の各種事業に積極的に取り組み、以下の活動を実施した。

##### ア 女性活躍に関するアクションプラン推進事業

伊那地区で、郷土料理の伝承を目的に講習会を開催した。マイスターが1人1名ずつ関係のある方を誘って開催され、マイスター12名、一般の方10名が参加し、郷土料理の伝承調理実習を行った。

##### 郷土料理伝承レシピ

- ・伊那名物ローメン、野沢菜の切り漬け、そばがき、くらかけ豆のひたし



写真1 郷土料理伝承講習会の様子

##### イ 次代活性化事業

農業機械の取扱い、農作業安全に関する資質向上及び地域推進品目の栽培知識向上を目的に、「女性にも扱いやすい農業機械研修およびJA菜園視察研修」を開催した。支部役員が中心に運営し、マイスター19名が参加した。JA農業機械部職員の講師から、草刈機、歩行型耕うん機、電動式防除機、乗用トラクターの基本操作、安全作業等について講義を受

けた。研修会後半には、JA菜園で作付けしている白ネギの栽培状況、収穫出荷作業、アスパラガスの栽培状況について視察した。



写真2 JA菜園視察研修の様子

##### ウ 牛乳・乳製品利用講習会

北部3地区(辰野町・箕輪町・南箕輪村)において、箕輪町で牛乳の消費拡大を目的に料理講習会が開催され、11名が参加した。



写真3 牛乳料理講習会の様子

##### (2) 冬期研修会の開催

通常総会に合わせ、冬期研修会を開催し、今年度の事業紹介、情報交換をおこなった。また、伊那市の白鳥豊子さんから「おさらい年中行事と行事食」と題して、上伊那地域に伝わる伝統行事と行事食について、気軽にできる頭の体操なども含めて講演があり、有意義な研修会となった。

### ■今後の課題と対応

マイスターは今年度1名新たに認定となったが、2名が退会となったため、新たなアクションプラン実行のためにも新規認定者を増やしていく必要がある。

(地域第二係 井ノ口、地域第一係 小野)

## 伊那谷ゆるっとつながる農業女子の会 活動支援と会員の資質向上

### ■背景とねらい

伊那谷ゆるっとつながる農業女子の会は、NAGANO農業女子から派生したグループで、幅広い年齢層から構成され、農産物加工やマルシェなどの活動を中心にSNSの活用もしている。会の設立から日が浅く、支援センターでは会員から農村生活マイスターへの認定も見据え、活動を支援している。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 伊那谷ゆるっとつながる農業女子の会

##### (1) 農業女子経営力アップ支援事業

長野県農業再生協議会の事業に応募し、有機農業の勉強会、チランの作成方法の勉強会を各一回実施したほか、都心でのマルシェ活動を実施し、消費者との交流を図った。



写真1 有機農業勉強会の様子

##### (2) 地域活動支援事業

「おいしい信州ふード」キャンペーン推進委員会の事業に、伊那谷ゆるっとつながる農業女子の会の構成員でつくる「伊那谷の種と料理を伝え隊」が応募し、郷土料理の復元実習や伝統野菜についての講演会を2月22日に開催した。

### ■今後の課題と対応

会員の年齢幅が広く共通の興味や課題は見つけにくい。今後とも女性農業者の組織活動を支援し、仲間づくりや農村女性リーダーの育成を図っていききたい。

(地域第一係 小林)

## プロジェクト活動の取組による 技術向上と交流促進

### ■背景とねらい

青年農業者の自立した農業経営を確立するため、課題発見・解決能力の獲得と向上を図る。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 課題の発見とその解決支援

##### (1) 対象者の選定と支援

青年農業者等にプロジェクト活動への誘導を行った。対象者は新規就農者等の重点対象者の他、農業者組織の活動に積極的に取り組む農業者2名を重点支援対象として選定した。

対象者に対し個別巡回指導や検討会を行い、課題解決の取組み、また結果のまとめ、発表準備等について支援を行った。

##### (2) 成果発表のためのフォーラム開催

1月18日にアグリフォーラムを開催した。プロジェクト活動の成果発表を1名が行ったほか、農業への思いや将来の目標に関する意見発表を2名が行った。フォーラムへは、農業者・関係機関等が出席し、発表に対し活発にアドバイス、意見、質問等が行われた。

プロジェクト・意見発表者のうち、それぞれ1名が、「明日の長野県農業を担う若人のつどい」の地区代表発表者として推薦した。



写真1 アグリフォーラムの様子

### ■今後の課題と対応

新規就農者・青年農業者の巡回等の中で、農業者の課題を引き出し、解決方策の取組み支援を行っていく中で、課題解決能力に長けた青年農業者の育成を図っていく。

(地域第一係 原)